

真庭の自然を生かした農業開発

岡山県立真庭高等学校落合校地 食農生産科1年

小林日菜姫 檜本遙陽 牧朋美

1. 活動をおこなったきっかけ

メンバー全員がSDGs未来都市に認定されている真庭市出身。

豊かな自然に囲まれた真庭高校食農生産科に所属したことで、自然と農業の持続的な共生の形を見つけたかった。

2. 活動内容

①学校の裏山である**注連山の土地を所有している方**に話を伺いに行き、

竹害に悩まされていることを聞き、その解決方法を模索するために竹を伐採させていただいた。

②頂いた竹の特性を知るために、竹を使って小物作りや流しそうめん作りをおこなった。

③**岡山県森林研究所木材加工研究室**で竹パウダーを試作し、農業への利用価値を知るためにハツカダイコンを栽培した。

④校内で中間発表会をおこない、フィードバックをもとに新たな活用方法を模索している。

2-① 作陽印刷工業株式会社との連携

○注連山（しめやま）とは

真庭高校の裏山として落合地区の人々から大切にされてきた山。

○注連山に土地を持つ**作陽印刷工業株式会社**に話を伺う。

以前はイノシシなどの獣害に悩まされていた。

イノシシが居なくなってからは、タケノコが伸びっぱなしとなり、無秩序に広がる竹林が形成された。



○竹害

- ・他の樹種の成長を阻害し生態系が単純化する。
- ・土壌保持率が低く土砂崩れが起きやすくなる。
- ・近隣の建物への浸食や倒れる危険性が発生する。



○竹を伐採

竹害拡大防止のために伐採させていただいた。



2-③ 岡山県森林研究所木材加工研究室との連携

○岡山県森林研究所木材加工研究室で竹パウダーを試作

竹パウダー作成を森林研究所に相談したところ、粉碎機を試作用に貸していただいた。



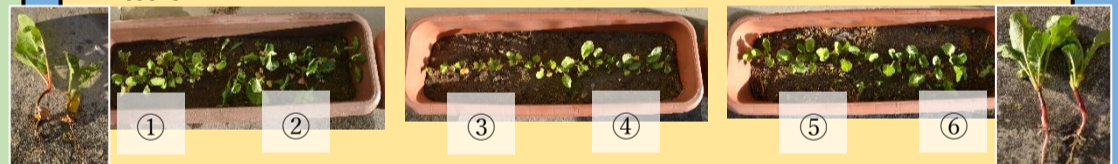
3mmと5mmの2種類を作成

○竹パウダーを使ってハツカダイコンを栽培

真庭市落合振興局が製造しているバイオ液肥をいただき、

①肥料無し ②液肥 ③3mm竹パウダー ④3mm竹パウダー・液肥 ⑤5mm竹パウダー ⑥5mm竹パウダー・液肥を用意。

○結果は…



竹パウダー	液肥
<ul style="list-style-type: none"> ・茎が太く丈夫に育った。 ・虫食いが少なかった。 ・5mmのほうが成長が良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根が丸く育った。

2-② 竹の特性を知る

○小物・流しそうめんづくり

切る、水につける、刻むなどをおこなった。



○竹の特性

- ・若い竹は水につけると曲がりやすい。
- ・乾燥した竹は強く頑丈。
- ・乾燥した竹は鋸で切る際に、パウダーが発生する。



2-④ 中間発表会とフィードバック

○中間発表会

他の探究活動をしているグループと発表し合うことであらたな視点を獲得することができた。



○フィードバックを通して

「竹を資源として考えることができるようになった」という意見があった。今後は、市のSNSを使って魅力発信をおこなっているグループと協力するなどして、真庭市の資源・魅力としてどう発信していくか考えていきたい。

3. まとめ

今回の活動はSDGs17の目標のうち、11と15を達成するための取り組みといえる。

SDGs未来都市で生きる私たちだからこそ、他の市ではできない体験や気づくことのできない感覚に接し、新しい知識や発見をしていけると五感を通じて知ることができた。真庭という街から世界につながる取り組みを今後もおこなっていききたい。

